

財団法人東方研究会／東方学院

東方だより

第十号

〒101-0021
東京都千代田区外神田2-17-2
延寿お茶の水ビル 4階
TEL 03-3251-4081
FAX 03-3251-4082
URL <http://www.toho.or.jp>

第十号 目次

前田専學理事長・東方学院院长ご挨拶	1頁
奈良常務理事ご挨拶／決算報告と新予算	2頁
芳名録／平成十九年度研究活動状況	3頁
東方学院新講座／研究会員の声	4頁
研究会員の声	5頁
平成十九年上半年行事報告	6頁
東方学院講師紹介／東方研究会研究員紹介	7頁
東方研究会からのお知らせ	8頁

役員ご挨拶

理事長・東方学院院长

前田 専學



『東方だより』の読者の皆様、ご健勝のことと拝察致しております。小生は、去る五月、外務省の「日印交流年」実行委員会の委員として、記念講演のために、デリーとチェンナイ（マドラス）に行つて参りました。その四十四度という暑さのせい、帰国直後体調を崩し、ご迷惑をおかけ致しましたが、今はすっかり元気に致しております。

さて、前号でお知らせ致しましたように、昨年六月、財団法人東方研究会が新しい体制で発足して以来、早くも一年以上の月日が経過致しました。その間に、奈良康明常務理事のご提案で、本財団には二つの特筆すべき改革が進められることになりました。

一つは、事務局の改革であります。近年事務局の事務量も増え、複雑化してきており、皆様にご迷惑をお掛けしたこともあったのではないかと思います。事務の効率化と正確さを期するために、職務を分掌し、主事（関西事務局では主任）の下にあらたに主務を置くことになりました。

今一つは、財団法人東方研究会の研究員の研究体制の改革であります。初代理事長時代から、研究員は各自自主的に研究する体制をとっており、大きな成果をあげて参りましたが、研究員間の横の連絡が不十分で、相互に切磋琢磨する機会が不足する嫌いがありました。その欠点を補うために、「インド哲学研究部会」「仏教学研究部会」「比較思

立っていると思います。後者も、徐々に体制が整備されてきており、それぞれの部会での活発な研究活動が期待されております。

本財団にとつての朗報は、日本学術振興会の大型の科学研究費が、今後三年間に亘つて支給されることに決まったことでもあります。これによつて当財団の研究員と外部の研究者とが、「インド宗教思想の多元的共存と寛容思想の解明」を研究テーマとして、共同して研究することになりました。

今回の『東方だより』の大きな特徴は、財団法人東方研究会の十八年度の決算報告と十九年度の予算報告の骨子を掲載したことでもあります。これにより公益法人である本財団運営の透明化を図り、財団に対する皆様方のより深いご理解を得るためであります。

本来、財団法人は、基本金から生まれる果実と、善意の寄付金によつて運営されるべきものであります。しかし周知のように、今なお基本金から生まれるべき果実はほんの微々たるものすぎず、本財団は主として皆様方からのご支援に依存しているのが実情であります。本紙に、当財団を支えて下さっている方々のご芳名をしるし、深甚の謝意を表することに致しました。有難うございました。

近年、識者の間で、文学部、あるいは哲学・仏教学・宗教学などは、人文科学の危機が叫ばれるようになってまいりました。かつて哲学は、人文科学の中でも、伝統的に諸々の学問の基礎として、つねに諸々の学問のトップに位置づけられてきておりました。大学教育では、必修科目でありました。しかし今や圧倒的に優勢な科学技術信仰を前にして衰退を余儀なくされているのが現状であります。

大学などにおける人文科学が、このような状況にあるからこそ、財団法人東方研究会・東方学院の存在がますます重要なものになってきていますように私には思われます。皆様方の、今後ますますのご協力・ご支援をお願いして、ご挨拶に代えたいと思ひます。

「想研究部会」をはじめ八つの研究部会を立ち上げ、それぞれの部会には主任を置き、その主任の責任で、月一回の研究例会を開き、情報交換・研究の促進を図ることになりました。



常務理事

奈良 康明

前田理事長が五月に「日印交流年」の記念行事の講師として渡印されましたが、小生が六月の講師として招「よ」ばれており、デリーおよびブネーでの記念講演に出かけてきました。

インドは豊かになって、たしかに「衣食足って礼節を知る」面があります。インドの人の態度も顔つきも嘗てのインドと違ってきていることはたしかです。

しかし、旧友たちと話しあったのですが、インドでも生命倫理や環境問題などが重要な問題として議論されていて、その根底には人間のエゴイズムがあり、それをどう社会的に抑制していくかが問われているようです。

日本も同じ問題を抱えています。「共生」を実現するならば、みんなが互いに他者を思いやる姿勢がなければなりません。今日の社会には生命倫理、環境問題、平和問題、青少年教育の再構築等等、多くの問題があります。仏教の立場からこうした問題をどう分析し、どう改善できるのか、という「実践的な仏教学」の樹立が求められています。東方研究会のように、多彩な専門分野にまたがる多くの人材が集まっているところこそ、そうした研究は可能ですし、今後の課題として真剣に考えていくべき問題といえましょう。

前田理事長の挨拶にもありましたが、今回、研究部会制度が発足しました。将来の「実践仏教学」研究の基礎であり、研究会のさらなる発展の基礎として、今後の活動に期待してきます。

東方研究会はいま大きな曲がり角にさしかかっています。中村先生の理想とされた「寺子屋」としての親密な人間関係と、近代的研究所としての組織化、研究体制の確立が喫緊の問題となつています。その実現を図ることと関連して財政基盤の確立が必要です。新たに維持会員制度をもうけたのも、中村先生の理想実現のための努力の一環であり、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

決算報告と新予算

主事

堀内伸二

『東方だより』紙上、予算および決算を皆様にお知らせするのは、今回が初めてとなります。そこで、平成十九年三月一日の理事会・評議員会ならびに平成十九年六月十九日開催の同役員会にて報告・承認された、平成十八年度決算ならびに平成十九年度予算に、予・決算の枠組みと、過年度との大きな相違点に絞ってお伝えすることにします。

申すまでもなく、初代理事長中村元先生が創設された本財団の事業は、「寄付行為」に基づいて遂行されており、寄付行為には、東洋思想の研究およびその普及を財団の目的とすることが明記されています。したがって予算と決算は、研究および普及という、二つの事業に関わる経費と、管理費とから成り立っています。

十八年度決算の特徴としては、支出の内、事業費全体に占める研究事業費の割合が、八割を超えた点が第一に挙げられます。

法改正に伴い、従来、当財団に与えられていた「特定公益増進法人」という資格の認定に、文科省のほかに、新たに財務省が協議に関わることとなりました。その際、財務省によって、「総事業費に占める研究事業費の割合が七割を超えていること」が、認定基準として提示されました。

本財団は、大学院を修了した多くの優れた研究員を擁し、東洋思想に関し、様々な分野にわたる実に多くの研究成果を世に出し、また大学の教授・准教授を輩出してきたことは周知の事実です。

〔*次頁上段に続く〕

正味財産増減計算書

自平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

科目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減部			
経常増減の部			
財産運用収益	2,445	1,760	685
会費収入	1,120	1,135	-15
普及事業収入	16,440	15,929	511
寄附収入	5,840	7,231	-1,391
その他収入	751	1,178	-427
経常収益計	26,596	27,233	-637

科目	当年度	前年度	増減
経常費用			
事業費	23,527	24,540	-1,013
研究事業費	18,975	19,241	-266
普及費	4,552	5,299	-747
学術文化の普及	820	1,898	-1,078
東方学院	3,672	3,341	331
研究助成	60	60	0
国際協力費	0	0	0
管理費	3,638	2,160	1,478
経常費用計	27,166	26,700	1,478
当期経常増減額	-570	532	-1,102
当期一般正味財産増減額	-570	532	-1,102
一般正味財産期首残高	295,695	295,163	532
一般正味財産期末残高	295,125	295,695	-570
正味財産期末残高	295,125	295,695	-570

平成18年度貸借対照表

平成19年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	24,129	流動負債	8,375
現金預金	23,945	仮受金	7,950
運用有価証券	184	未払金	425
固定資産	279,371	固定負債	0
基本財産	112,817	負債の部合計	8,375
建物	8,965		
土地	23,887		
有価証券	79,965		
基金	166,254		
研究所建設基金	157,254		
日本仏教史研究基金	9,000		
その他固定資産	300		
資産の部合計	303,500		

正味財産の部	
科目	金額
正味財産	295,125
うち基本財産	112,817
うち当期正味財産増加額	-570
負債及び正味財産合計額	303,500

平成19年度 収支予算書
自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

【収入の部】 (単位:千円)

科目	当年度	前年度	増減
財産運用収入			
基本運用財産利息収入	3,000	2,500	500
会費収入			
普通会員費	1,600	1,200	400
普及事業収入			
東方学院	15,350	15,200	150
学術賞	200	200	0
新春会	500	0	500
寄附収入			
賛助会費	1,000	3,000	-2,000
維持会費	3,000		3,000
大阪後援会会費	800	900	-100
一般寄附等	2,500	2,200	300
その他収入	400	600	-200
当期収入合計	28,350	25,800	2,550
前期繰越収支差額	21,000	21,000	0
収入合計	49,350	46,800	2,550

【支出の部】 (単位:千円)

科目	当年度	前年度	増減
事業費	23,950	22,130	1,820
研究事業費			
研究費	4,300	0	4,300
特定研究推進費	1,540	1,840	-300
文庫購入費	100	100	0
研究成果公開費	2,100	2,100	0
人件費	10,000	9,400	600
学会費	60	60	0
雑費	50	300	-250
普及費			
東方学院	4,200	7,250	-3,050
中村元東方学術賞	700	700	0
新春会	600	0	600
宗教文化の旅	150	150	0
講演会開催・協力	0	50	-50
雑費	100	100	0
国際協力費	50	50	0
図書館の贈呈・配布	0	30	-30
管理費	3,340	3,180	160
基金取得支出	10,000	0	10,000
予備費	1,000	300	700
当期支出合計	38,290	25,610	12,680
当期収支差額	-9,940	190	-10,130
時期繰越収支差額	11,060	21,190	10,130

しかし、初代理事長は、専門家の間だけで通用する研究のみならず、その成果を広く一般の方々に普及させたいという高邁な理念のもとに、「真に一人の教えた一人と真に学びたい一人がいれば成り立つ」現代の「寺子屋」を目指して、財団内に東方学院を創設し、普及事業の柱に位置づけられました。

ところが、この普及事業は、財務省の基準の、いわゆる「研究事業」には該当しないという判断が示されました。それにもかかわらず、十八年度決算において、研究事業費の割合が、基準の七割を超えたことは、理念を継承しつつも、財務省基準をクリアしたことになり、大いに歓迎すべき結果となったといえます。

一方、十九年度予算については、基本的に予・決算は「継続性」が保たれることが望ましいとされますが、本紙掲載の予・決算の科目名を比較していただければお分かりの通り、科目名が、今年度予算から大幅に変更され、また追加されました。特に、支出の部において、これまで研究事業の中心を占めてきた研究調査費とは別に、「研究費」という科目が追加され、四三〇万円が計上された点、そして、それに伴う形で、収入の部において、「賛助会費」とは別に、「維持会費」という科目が新設されたことが、大きな変化です。

これは、理事長挨拶にもある通り、財団の研究体制が見直された結果、研究活動の一層の進展に向けての研究費増額がなされたことが大きな理由です。それと同時に、財団のより堅実な維持ならびに発展にむけ、中村元初代理事長の理念に賛同いただける方々のご支援をもとに、新たな事業展開を含む、理念の一層の具現化を図るためであります。

平成十八年度 芳名録(五十音順・敬称略)

- 賛助会員
- 赤井士郎 阿部敦子 新井慧馨 石井義長 一月正人 稲葉珠慶 大倉精神文化研究所 大谷光真 大谷暢順 小笠原勝治 小笠原隆元 小方道憲 沖本克己 小端香芳 (財) 借成会 加藤妙子 金田泉 金田静江 川崎信定 木村隆徳 (財) 京都仏眼協会 久保健成 栗原英二 黒川文子 桑田光雄 小泉宗之 小泉守邦 小林覚雄 小林節子 金剛院仏教文化研究所 三枝充恵 桜井俊彦 佐々木政吉 佐藤良純 史跡足利学校管理事務所 島田外志夫 清水谷善主 釈悟震 春秋社 浄土真宗東本願寺派本山山東本願寺 須佐知行 浅草寺 大海修一 大東出版社 高崎直道 高田翠 高橋光昭 高橋審也 高松孝俊 田上太秀 竹下滋子 武田浩学 田辺和子 田丸守也 田村晃祐 中央学術研究所 千綿道人 鶴谷志摩子 (株) 展勝地 東京書籍(株) 道心会 (財) 東洋哲学研究所 菅野新寛 徳江東 中田直道 長野市南長野仏教会 中村久夫 中村洛子 奈良康明 榑崎通元 成田山盤井寛 西嶋和夫 (社) 日本移動教室協会 樋口誠順 日隈威徳 日野紹運 藤井日光 藤島秀孝 藤田益弘 藤田宏達 藤巻勝 藤本幸邦 宝積比較宗教学文化研究所 保坂俊司 (財) 法華会 堀越教之 本間昭之助 前島正雄 前田専学 前田式子 的場裕子 水上文義 水野喜朝 三友量順 山本文溪 吉田魚彦 吉野恵子 吉野誠
- 東方学院後援会
- 今宮戎神社 大神神社 大阪天満宮社務所 奥田清明 奥田聖志 加藤公俊 古泉圓順 金光教泉尾教会 坂本峰徳 四天王寺 四天王寺学園 四天王寺国際仏教大学 鈴木寛治 (学) 清風学園 高口恭典 瀧藤尊教 瀧藤尊淳 健代和央 津江孝夫 塚原昭應 塚原亮應 出口順得 出口隆順 唐招提寺 東大寺 富山泰 念法真教教団 長谷川霊信 平岡英信 廣瀬孝善 南谷忠敬 宮崎光映 森田祥朗 森田俊朗 山口忠照 吉田英哲 吉田明良
- 御寄付
- 赤井士郎 吾妻秀子 及川弘美 龜山祥之 (財) 京都仏眼協会・本間昭之助 克念社 小山典勇 塩井正子 浄土真宗大谷派 田辺和子 中田直道 長谷川霊信 本願寺維持財団・大谷暢順 前田専学 松久保秀胤 松本照敬
- 皆様からのご支援に心より御礼申し上げます

平成十九年度 研究活動状況

今年度、当財団では左記の科学研究費研究を推進しております。

基盤研究「A」

- 研究課題 インド宗教思想の多元的共存と寛容思想の解明 (課題番号一九二〇二〇三)
- 研究代表者 釈悟震
- 研究分担者 外部研究者六名、及び、当財団の研究員六名。
- 研究期間 平成十九年度～二十一年度

基盤研究「C」

- 研究課題 日本における宋代風水思想の受容と展開に関する研究 (課題番号一八五二〇〇六)
- 研究代表者 鈴木一馨
- 研究期間 平成十八年度～二十一年度

研究課題

- 研究代表者 吉村均
- 研究期間 平成十九年度～二十二年
- 研究課題 インド・チベット仏教の「心の宗教」としての伝統とその現代的意義に関する研究 (課題番号一九五二〇〇三)
- 研究代表者 柴崎麻穂
- 研究期間 平成十九年度～二十二年
- 研究課題 インド古代神話の形成——『プリハット・カタール』のカシミール伝本成立を探る (課題番号一九五二〇二九)

- 研究代表者 柴崎麻穂
- 研究期間 平成十九年度～二十二年

東方学院新講座

東方学院が四月九日に開講いたしました。本年度は全五十講座が開講され、延べ約三百名に及ぶ研究会員が参加しています（『手引き』より抜粋）。

講師名 鈴木健太（武蔵野大学通信教育部講師）

講座名 パーリ語入門

概要

本講義は、初期仏教やスリランカ・タイ等の南方上座仏教を学ぶためには不可欠なパーリ語について、その基礎的文法を教授することを目的とする。一年間の授業のうち、前半で文法に関する説明を、主に講義形式で行ない、後半には実際にパーリ語の文章を輪読形式で読む予定である。

講師名 奈良康明（駒澤大学名誉教授）

講座名 インド仏教文化史

概要

仏教は思想ではない。「生きる道」であり、そのなかに思想はあるが思想そのものではない。当然、仏教は人々が生きていく社会の歴史状況と生活文化に深く関わっている。釈尊の悩み、修行は何だったのか？ その背景に何があつたのか？ 仏教が社会に定着したとき、ヒンドゥー世界という「文化基盤」とどう関わっていたのか？ 本講義においては、仏教を「教理」のみではなく、広く生活「文化」の面から捉え、インド仏教徒の信仰の在りようを探ってみたい。

講師名 三友健容（立正大学教授）

講座名 アビダルマ研究

概要

有部の『アビダルマディーパ』を世親の『俱舍論』の梵本、チベット訳、漢訳（玄奘訳・真諦訳）ならびにヤンショミトラ、プールナヴァルダナ、ステイラマティなどの注釈および『順正理論』を参照しながら読んでいきます。

講師名 渡邊寶陽（立正大学名誉教授）

講座名 法華経を読む

概要

『法華経』はよく知られている経典です。平安時代以降、諸経の主として讀みえられてきました。この講義では、序品第一から順序に従って概要をたどって行きたいと思えます。

『東方学院の手引き』配布中

東方学院では、各種講座の内容・受講料・お申し込み方法などを記載した『東方学院の手引き』を配布しております（無料）。事務局にお越し頂ければ直接お渡しいたします。郵送をご希望の場合は、「手引き希望」と書いた封筒に二百円分の切手（郵送料・実費）と希望される方の郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入した紙を同封の上、財団法人東方研究会内東方学院事務局宛にお送りください。折り返し『手引き』をお送りいたします。

研究会員の声

関西教室特集

飯高 淑子



関西教室でサンスクリット語を学び、四年になります。

サンスクリットとは、靈的な知識を得た聖人たちによってつくられた「完成された言語」といいますが、インドの人々はそれを「神々の言語」、つまり聖なる言葉の連なりであるといっています。

私がサンスクリット語を勉強するきっかけは、その聖なる言葉への憧れによるものでした。それと以前から私はインド地域における宗教、文化、生活習慣に大変な興味を持っており、その根底にあるインド思想をもっと理解したい、とも思ったのです。

数々の神話や聖典を持つサンスクリット。私もそれらを原文で読みたいと志し、当学院のサンスクリット語入門に始まり、初級、中級と経てまいりました。複雑な文法と、ひとつの言葉の中に二つ以上の意味を持つ単語には解釈に悩まされますが、それが却ってサンスクリットの神秘的な魅力にも感じます。また、一個の動詞語根から、たくさんに展開される言葉の広がり、とても興味深く、それはあたかも唯一のものから万物が広がったこの世界をあらわしているかのようにも感じられます。

現在は『バガヴァッドギーター』を勉強していますが、原文を自分ひとりで訳すことはとてもまだ出来ません。ですが、私は『バガヴァッドギーター』をとっても好きになりました。毎日少しずつですが、ひとつひとつの単語を辞書で調べ、動詞の変化、格の変化を理解し、文章全体の意味は日本語訳に頼って予習しています。そして毎週の講座で先生に自分で予習したところの誤りを訂正して頂き、さらに『バガヴァッドギーター』に表現されるインドの宗教、哲学、宇宙観などをわかりやすく解説して頂いております。

サンスクリットの原文をたった一節読むだけでも、私には大変時間のかかる作業ですが、単に日本語に訳された聖典を読むよりも、サンスクリットの原文と日本語訳を併せて読むとさらに理解が深まり、サンスクリットの言葉の世界が楽しめます。

サンスクリットには辞書的な言葉の意味だけでなく、その言葉の内には暗示的な別の意味があるといわれています。そのような深遠な意味を理解するには、とても長い時間がかかります。ですが、これからはサンスクリットを学び続けたいと思います。



関西教室 福聚禅院

岩澤 庄司

私をはじめて東方学院の受講をさせていただいたのは平成十五年の春からの堀内伸二先生の「仏教聖典入門」でした。その年は駒澤短期大学仏教科を卒業して、駒澤大学で科目等履修生としていくつかの授業を受講しはじめた年でした。その時の研究会員の皆さんは、仏教の勉強を始めてまだ二年しか経っていない私に比べて長く勉強を続けておられる方が多かったです。そんな研究会員の方たちからの質問に堀内先生は懇切に対応されておられました。

その翌年の平成十六年には京都に住むことを思いつき、場所は異なっても東方学院での受講を続けたいと思い、関西地区での講義の一覧表を見ていたところ佐藤宏宗先生の「般若経典を読む」という講義が目にとまりました。東京では「仏教聖典入門」を受講しましたので、それを継続するような気持ちで受講を始めました。その年から現在まで、先生のご自宅のお寺で、研究会員は私一人の講義を続けていただいています。

一年目の平成十六年は『金剛般若経』の購読をしていたとき、そこに説かれていた空思想に触れることができました。その翌年の平成十七年には大学で仏教の勉強を続けたいと思い、龍谷大学の仏教学科の三年次に編入学をしました。大学ではインド仏教中心の勉強をするともにサンスクリット語の勉強を始めました。その年は佐藤先生にサンスクリット語のご指導をしていただきながら、『般若心経』の小本と大本を読み、『中論』の第一章と第二章の偈のいくつかを読むことができました。

昨年、平成十八年には『中論』第二十四章の偈を全部を読むことができました。昨年は龍谷大学の四年次で、卒業論文を書くことも大きな課題でした。論文のテーマは『般若心経』とし、前年に読んだものの和訳の手直しをしたり、論文執筆のご指導を佐藤先生にお願いしました。今年三月に無事大学を卒業できたのは日頃の先生のご指導があつてこそと思っています。

大学を終えて、京都の住まいを引き払って関東に戻りましたが、引き続き先生のご指導をお願いしています。住まいの横浜から大津へ毎週通うことはできませんが定期的に通うこととして、今年はチャンドラキールティの『プラサンナパター』を読み始めました。初めての論書をサンスクリット語で読むのは難しいですが、継続は力だと自分に言い聞かせながら机に向かっています。六十歳を過ぎてから始めた仏教の勉強に終点はないようです。



子曰、學而時習之、不亦説乎

拝師 暢彦

平成十六年春、永年勤務した教職を退き、佳きご縁に導かれて東方学院関西教室に学ぶ機会を得ることができました。

故中村元先生のご遺志を引継ぎ、当代稀有なる学燈を守り、学院を發展させてこられた諸先生方のご高德に接することができ、有難く感謝していただきます。

さて私は、現在、山口恵照先生のご講義を週に一度拝聴させて頂いておりますが、機会ある毎に自分自身が抱えている疑問・質問に対して、的確にお教えいただき、驚くと共に新たな学習意欲が湧いてきているところで

す。もとより暗愚な私ですから、新しい知識等を得て、さとりを得ようなどとは考えておりませんが、願っていることはただ一つ。家族の健康と幸福、知人の平穩、更にその延長線上にある国家社会の安寧のことであります。

年齢を経たこともありましたが、昨今思いますことは、我が思いに反して我が国・社会が違う方向へ移ろいでいるように感じられることです。不善に繋がる学問や情報がいつの間にか社会を席巻し、「学而思則殆」と云わんばかりの世の中になってきているように思えます。学ぶことの大切さが頃に薄らぎ、衰えて来ているように思えてなりません。

今日、学ぶことの喜びを教えて頂ける東方学院は、私にとりまして有難いものです。現在も尚、迷妄の海を彷徨い続けている私ではありますが、「有朋自遠方来、不亦樂乎」と教室に通う日が来るのを楽しみにしております。

そして今、頼りとする一條の光明のもと、「人不知而不愠」の境地を目標に精進を重ねていきたいと、気持ち新たにしているところです。

編集部では会員の皆様からの寄稿をお待ち申し上げております

詳細は当財団事務局内「東方だより」編集部までお問い合わせ下さい。なお、紙面の都合上、一部の文言を改めて頂くか、もしくは掲載をお断りする場合がございますので、予めご了承願います。

新春会

三月十三日（火）、東京都文京区の東京ガーデンパレスにおいて、当財団主催の新春会（研究発表／懇親会）が開催されました。

会は二部構成で、先に行われた研究発表では、当財団の前田専學理事長からのご挨拶に続いて、当財団の吉村均研究員による「チベット仏教カダム派の教えーラムリム（菩提道次第）とロジョン（心の訓練法）ー」と題する研究発表と、当財団の奈良康明常務理事（駒澤大学名誉教授）による「『智慧』が先か、『慈悲』が先か？」と題する研究発表が行われました。

その後、会場を同施設内の別室に移して、百名近い方々のご列席を賜り、和やかな雰囲気の中、懇親会が開催されました。



研究員総会

四月二十八日（土）、東京都千代田区にある学士会館において、第一回研究員総会が開催されました。

この総会は当会の更なる発展のため、研究員が一同に会し交流を深めつつ互いに意見交換を行うことを目的として企画されたものです。当日は三十名以上の研究員が出席し、前田理事長の挨拶に始まり、奈良常務理事をはじめとする執行部より研究員に対する通達・要請事項が伝えられました。また、研究部会の創設に向けた取り組みが開始され、活発な議論が交わされました。



東方学院ガイダンス

四月五日（木）午後六時より、東方学院のガイダンスが東京都千代田区にある神田神社明神会館（東京本校）及び大阪府茨木市にある浄土真宗大谷派茨木別院（関西教室）において開催されました。

東京本校のガイダンスにおいては、最初に前田専學東方学院院长により東方学院の理念や学院全般についての説明が行われ、続いて各講師の紹介、講師による講義内容の説明などが行われました。参加者は前田学院院长をはじめとする約三十名の講師と、研究会員諸氏、合わせて約百名でした。



行事報告

平成十九年上半年期（一月～六月）

ホームページのお知らせ

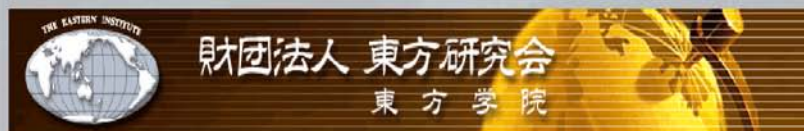
当財団ではホームページを開設しております

当財団および東方学院に関する情報を掲載しておりますので是非ご覧下さい

URL <http://www.toho.or.jp>

- ・創業者中村元博士と東方研究会設立の理念および概要
- ・東方学院の各種講座の案内とお申し込み方法
- ・研究員のご紹介

随時更新中



東方学院 講師紹介



『涅槃経』講義への思い

田上 太秀

(駒澤大学名誉教授)

二十数年前、私は東方学院の講義をしておりました。その後しばらく中断していましたが、一昨年、久しぶりに講義を再開しましたところ、私が離れていた間もたゆまず勉学を続けている方がおられて驚嘆いたしました。そして、昨年からは月曜日に『涅槃経』の講義を担当しております。

講義では大乘仏教の仏典である六巻本『涅槃経』を講義してあります。四十巻のものもありますが、これを詳細に講義すると何年かかるかわかりません。それで六巻のものを読むことにしました。これでさえ週に一回の講義ですから一年や二年で読破できるものではありません。

昨年はこのテキストの最初の部分を読み經典の紹介をしました。そこで今年は途中を飛ばして、如来性品から読み進めています。この部分は『涅槃経』の教えの中心である「仏性」を詳しく説いているので、これをじっくりと読み込んで、難解な仏性思想を熟知していただけるように努力しようと思っています。

恩師中村元博士はテレビやラジオなどで原始仏教や大乘仏教のなかの重要な仏典を数多く解説されました。また翻訳された仏典も多数出版されました。その中で唯一先生が手を付けずに残された有名な仏典があります。それが大乘の『涅槃経』でした。

私は四十巻本『涅槃経』の翻訳を試み、初刊本を先生に献呈いたしました。その折、中村先生は「私はこの仏典の翻訳をしたかったのだ」とおっしゃいました。私にはそのお言葉が忘れられません。

東方学院での『涅槃経』の講義が先生の念願の一端でも果たすことに役に立てればという思いで、これからも講義を続けていきたいと考えています。



田辺 和子

村元先生は、その頃は神田明神の裏下にあった東方研究会に研究員として務めさせて下さったのです。中村先生のお側で仕事をさせて頂くと、先生の学問の大風の中に巻き込まれて、自然に勉強を続けさせられるという体験をさせて頂きました。その勉強が土台になってバンコクでも、名古屋に移り住んでからも、歩みはのろいのですが三十五年以上も研究を続けさせて頂いたと思います。

一九七七年から二年間、滞在したタイのバンコクで国立図書館に通い、タイ所伝の五十ジャータカの中の一物語の貝葉写本をすこしづつ読ませてもらいました。当時インドに留学していた阿部慈園研究員がバンコクに立ち寄られた時に国立図書館に私を連れて行き、クメール文字の貝葉写本の読み方を教えてくれたのです。帰国の際、五十ジャータカのいくつもの写本のマイクロフィルムを図書館員からもらいました。帰国後、五十ジャータカの概要を発表させて頂いた後、目を患った私は、写本を読み続けるのを長く休みました。その間にバンコクでの写本保存事情がすっかり変わり、貝葉写本を直に見せることはしなくなりました。ですから私の頂いた五十ジャータカのマイクロフィルムは非常に貴重なものになったのです。

その後大谷大学にも同じ種類の写本が保存されていることがわかり、一九九六年頃から吉元信行先生のチームと共同研究をさせて頂くことになり、私のマイクロフィルムも大谷大学の写本もデジタル化して自由に読めるようになりました。さらにバンコクの王立寺院ワット・ポーから王立収集写本の中の五十ジャータカの写真撮影も許可され、それもデジタル化しました。

今は、これらの写本をもとにタイ所伝五十ジャータカのテキスト作りと翻訳を行おうと努力しています。

東方研究会 研究員紹介

財団法人東方研究会からのお知らせ

会員募集のお知らせ

当財団では各種会員制度を設け、随時募集いたしております。会員には、機関誌『東方』をはじめとする各種情報の提供が受けられる普通会员と、当財団へのご支援を主な目的とする賛助会員、並びに維持会員がございます。

◆普通会员

普通会员の皆様には、定期刊行物『東方』の他、当財団主催の各種行事および会合等に関するご案内をお送りいたしております。

年会費 七千円

◆賛助会員

◆維持会員（今年度新設）

当財団では賛助会員ならびに維持会員を募集いたしております。当財団の趣旨にご賛同頂ける皆様からのご協力をお待ちいたしております。なお、募金の趣旨をご理解の上、できうるかぎり複数口のお申し込みを賜りたく存じます。

賛助会費 一口 一万円

維持会員 一口 五万円

*詳細は東方研究会事務局までお問い合わせください

『東方』第二十二号、刊行

三月三十一日、当財団の機関誌『東方』の最新号が刊行されました。今回は論考三篇・資料一篇・報告三篇に加え、昨年開催された鎌倉夏期宗教講座の講演録及び中村元博士の講義録など各種連載記事を掲載いたしました。

なお、本誌は普通会员の皆様と各種研究機関並びに図書館等に頒布いたしております。バックナンバーもございますので事務局までお問い合わせください。

第十七回 鎌倉夏期宗教講座のご案内

来る八月二十六日（日）、鎌倉市の鶴岡八幡宮・直会殿において、鶴岡八幡宮のご協力とNHK学園のご後援により、第十七回 鎌倉夏期宗教講座を開講いたします。

今回は、松本照敬先生（大東文化大学教授）と木村清孝先生（国際仏教学大学院大学学長・同大教授）を講師にお招きし、それぞれのご専門に基づく「インド思想の源泉」と「仏教と神道の間」と題する講演が行われます。

本講座の受講を希望される方は、葉書またはファックスにて当財団事務局までお申し込みください。（氏名とご連絡先を必ず記載してください）なお、席に余裕がある場合は当日参加も受け付ける予定です。詳細は当財団事務局までお問い合わせください。

*鶴岡八幡宮へのお問い合わせはご遠慮願います

講座概要

開場 十二時（開演 十二時三十分）
終了 十七時
参加費 二千元（当日会場にて頂戴いたします）



上：鶴岡八幡宮
下：去年の様子



新任研究員のご紹介

本年四月一日付で左記の三名が新たに当財団の研究員として採用されましたのでここに報告申し上げます。

谷口 昌彦（たにぐち まさひこ）
最終学歴 東京大学大学院
専攻 インド哲学
単位取得満期退学

西岡 秀爾（にしおか しゅうじ）
最終学歴 花園大学大学院
専攻 禅学・死生学
単位取得満期退学

林 鳴宇（りん めいう）
最終学歴 駒澤大学大学院
専攻 中国仏教
修士・博士（仏教学）

交通のご案内（東京本部）

鉄道各線の最寄駅（徒歩十分以内）

JR東日本

中央線／総武線 御茶ノ水駅「聖橋口」

つくばエクスプレス

秋葉原駅

東京メトロ

銀座線 末広町駅「3番出口」

千代田線 新御茶ノ水駅「B2出口」

丸の内線 御茶ノ水駅「郵便局口」

当財団のあるビルは神田明神通、及び同神社の正面参道に面しております（大鳥居東隣）。なお駐車場・駐輪場のご用意はございません。予めご了承ください。

予めご了承ください。

東方だより 第十号（平成十九年八月一日）
編集／発行 財団法人東方研究会



表紙写真

A5判／全百九十頁

主な執筆者（敬称略）

- ・岡田明憲（マズダ・ヤスナの会代表）
- ・立川武蔵（愛知学院大学教授）
- ・入井善樹（光教寺住職・普通会员）
- ・加藤栄司（東方研究会研究員）
- ・定方 晟（東海大学名誉教授）
- ・平木光二（東方研究会研究員）